

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月20日

【評価実施概要】

事業所番号	0172902611		
法人名	医療法人社団 旭川圭泉会病院		
事業所名	グループホーム やすらぎⅡ		
所在地	北海道旭川市東旭川町下兵村254番地3 (電話) 0166-36-6511		
評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成20年2月20日	評価確定日	平成20年2月22日

【情報提供票より】(平成20年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 18年 3月 30日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 17人, 非常勤 人, 常勤換算 10.6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1 階建ての	～ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	18,000～23,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	400 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名
要介護3	5 名	要介護4	3 名
要介護5		要支援2	
年齢	平均 80.78 歳	最低 65 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 旭川圭泉会病院・東旭川病院・たくま歯科医院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体が医療法人で、身体拘束廃止委員会、感染症対策委員会、事故防止対策委員会が設置されケアサービスの質の向上に取り組まれているグループホームです。また、地域に根ざした活動を深めていく為に、保育園児との交流や音楽療法やボランティアの受け入れ、畑作りを通じて町内会や地域との交流も行われています。身体機能の維持・向上のために車椅子を出来るだけ使わずに自立歩行を促す取り組みや刺し子や縫い物などの趣味への支援を通じて利用者一人ひとりの能力を引き出す工夫もされています。母体法人との連携も密に行なわれ職員の研修の機会も多く看護や防災管理、市主催の権利擁護、協議会などへの研修参加が行なわれています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では、利用者の身体機能の低下に合わせた手すりなどの設備の検討が挙げられていましたが、脱衣場に椅子を多く配置するなど工夫された取り組みが行われています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、全ての管理者・職員が参加して行われ、課題を明らかにして継続的改善に利用されています。また、「グループホーム新聞」では、自己評価・外部評価の結果、運営推進会議、職員の紹介記事が掲載され家族に報告されています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、評価日現在3回実施されています。主な議題については ①地域との交流促進について ②東旭川小雪祭り参加について ③婦人部会、農事組合の集会参加について ④畑作業の協力について ⑤市民委員会主催行事参加について
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用料の支払いを毎月持参して戴き、生活の様子や状態変化について報告や家族の意見や希望、不安への対応などの機会を設けて話し合われています。また、苦情等の法人受付窓口を明確に掲示したり、ユニット単位で意見箱を工夫した場所に設置して意見や苦情を表せる機会を設けています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の敬老会や農業祭りへ利用者と共に参加したり、保育園児の訪問、学者犬の訪問、フルートやキーボードによる音楽療法、大正琴などのボランティアの受け入れなど地域との交流が行われています。また、畑作りでは、町内会役員の協力を得て土壌の改良を手伝って戴くなど日常生活を通じて認知症に対する広報や啓発に取り組んでいます。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム独自の理念をつくり、理念達成の為に基本方針が明確化され共用空間に掲示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践のために、毎朝のミーティングで理念・基本方針が全員で唱和されている。また、個々の職員は理念を常に携帯し、理念の実践に日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の敬老会や農業祭りへ利用者と共に参加したり、保育園児の訪問、学童の訪問、フルートやキーボードによる音楽療法、大正琴などのボランティアの受け入れなど地域との交流が行われています。	○	今後はさらに、地域に根ざした幅広い活動を行なうことが検討されています。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全ての管理者・職員が参加して行われ、課題を明らかにして継続的改善に利用されています。また、「グループホーム新聞」では、自己評価・外部評価の結果、運営推進会議、職員の紹介記事が掲載され家族に報告されています。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については評価日現在3回開催されている。委員は家族、町内会役員、民生委員、他施設の介護支援専門員、管理者及び職員で構成され、地域との交流促進など具体的活動に取り組んでいる。	○	今後は、2ヶ月毎に開催されるように地域包括支援センターなどの協力やホームの活動の実際を見て意見が戴けるような働きかけを行う計画がされています。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所及び管理者は、市担当者との連携の重要性については十分理解して日々取り組んでいる。また、市主催の成年後見制度の研修には積極的に参加しています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料の支払いを毎月持参して戴き、生活の様子や状態変化について報告や家族の意見や希望、不安への対応などの機会を設けて話し合われています。また、金銭出納については毎月報告されています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等の法人受付窓口を明確に掲示したり、ユニット単位で意見箱を工夫した場所に設置して意見や苦情を表せる機会を設けています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	季節毎に発行される「グループホーム新聞」で職員の紹介記事が掲載されています。また、運営者、管理者は職員の資格取得やスキルアップのための取り組みの支援を積極的に行い、離職などで利用者に影響を与えないように配慮する取り組みをしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の委員会で研修の計画が立案され、看護や防災危機管理などの研修が実施されて充実している。また、職員の協議会や市主催、在宅セミナーへの研修会参加も奨励されていると共に資格取得を奨励して支援されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センターや同一法人内の他施設、協議会を通じての同業者との交流も行なわれケアサービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、面接・相談を行い職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。また、センター方式の利用などで本人の趣味や嗜好を把握して支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	刺し子や裁縫、畑作業など利用者に教えて戴いたり、センター方式を採用して利用者一人ひとりの過去の大事な出来事や生活歴を把握するなど本人と共に支えあう関係構築に努力している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	裁縫や手芸、ぬり絵や折り紙、野菜作りなど趣味への支援、散歩、ヤクルトやパン屋さんの訪問販売で金銭を使う場面を見出したり、音楽療法への参加、入浴など本人の希望や意向を尊重した取り組みがされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護支援専門員の適切な監理のもとに、3ヵ月毎にモニタリングを行い、利用者、家族の希望や医師からの助言、職員からの意見を取り入れ具体的になっている。また、センター方式が採用されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護支援専門員が中心となって3ヵ月毎のモニタリングや状態変化などで変更が必要と判断した場合には、現状に即した介護計画の見直しが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況、散歩や買物、通院などその時々々の要望に応じて柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	利用者をよく知る看護職員が常勤しており、母体医療法人や主治医との連携で気軽に相談できる医師が確保されている。また、医師や歯科医師の往診など適切な医療が受けられるよう支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族の意志が確認され、方針が職員間で共有されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した声かけや記録等の個人情報保護の取り扱いをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの能力を引き出す工夫や車椅子を使わずに身体機能の維持・向上が出来るように自力歩行ができるようなケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、料理の下ごしらえや配膳など利用者と一緒になって行っている。また、職員に栄養士がいて栄養バランスや摂取カロリーについて把握されている。	○	特筆すべき点として、介助時の観察表が作られ顔色の変化、爪の色、痰、体熱など変化を見逃さない取り組みが職員間で共有されている。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週4日入浴日が設定されているが、利用者のタイミング、希望や意向を尊重して入浴が楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式が採用されて家族の協力を得ながら利用者一人ひとりの生活歴が把握されている。また、裁縫や刺し子、地域の行事参加、食事の準備や配膳、レストランなどへの外食、畑での野菜作りなど楽しみごとや気晴らしの支援が取り組まれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、紅葉狩りや旭山動物園見学、日帰り温泉入浴、地域の敬老会や農業祭りへの参加などレクリエーション計画を立てて戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会で鍵をかけないケアに取り組んでいる。また、帰宅願望の強い利用者には職員と一緒に散歩をするなど配慮がされている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	年2～3回火災避難訓練や自衛消防訓練が実施され、防災危機管理の講習会も実施されている。また、救急救命の訓練も実施され緊急時に速やかに対応できるように取り組まれている。	○	今後は、さらに日ごろより地域の人々の協力を得られるよう運営推進会議で働きかけを行う計画がされています。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員に栄養士が在籍して、栄養バランスや摂取カロリーの助言をうけて把握されている。また、嚥下状態に応じてキザミ食やお粥など調理が工夫されている。具体的な食事や水分の摂取量が記録され職員に共有されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光が採り入れられた平屋建ての共用空間では、利用者が気になる音の大きさや臭い、光の強さは感じられない。また、全体的に広いスペースが確保されリビングでは、刺し子やぬり絵など趣味を活かせる場所が確保されて、廊下やリビングの壁には利用者の紙細工などの作品や季節を感じさせる飾り付けがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入り口には、利用者手作りの表札が掲げられたり、居室には、使い慣れた家具や家族の写真、観葉植物が育てられ居心地よく過ごせるような工夫がされている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。